

令和6年度 第2回 福井県長期ビジョン推進懇話会

令和6年8月22日

福井県未来創造部未来戦略課

■ 次期「福井県長期ビジョン実行プラン」
の検討の観点（案）



■ 長期ビジョン推進懇話会（委員：有識者等 17名）

6月 3日（月）

- <第1回> 議題：①現・長期ビジョン実行プランおよび第2期ふくい創生・人口減少対策戦略の進捗
②国内・県内の環境変化・見通し
③次期計画策定に向けた今後のスケジュール



（第1回長期ビジョン推進懇話会）

■ 次世代応援意見交換会（カテゴリー別に参加者を募って実施）

7月 4日（木）	県外転出者	5名
8月 3日（土）	未婚女性	8名
8月 8日（木）	県外からの移住者	11名
8月16日（金）	既婚女性	4名
8月18日（日）	兼業・副業者	9名



（8/3 次世代応援）

■ 出前講座

（学校や企業におけるワークショップ等）

・ 5月24日（金）	北陸高校	9名
・ 7月 8日（月）	大原学園	261名
・ 7月17日（水）	羽水高校	27名
・ 7月22日（月）	県庁見学	40名
・ 8月19日（月）	インターン	129名

■ 市町別意見交換会

8月 2日（金）	福井市	18名	8月30日（金）	池田町（予定）
8月 6日（火）	南越前町	11名	9月 2日（月）	おおい町（予定）
8月19日（月）	敦賀市	17名	9月12日（木）	小浜市（予定）
8月20日（火）	大野市	14名	9月18日（水）	高浜町（予定）
8月23日（金）	越前町（予定）		9月20日（金）	坂井市（予定）
8月27日（火）	若狭町（予定）			



（8/2 福井市）

これまでの意見交換会の実施状況（つづき）



■ 分野別意見交換会 （各分野の現場で活動している方々と意見交換）

産業・労働分野	63名	医療・健康・介護・福祉分野	34名
農林水産分野	132名	防災・環境分野	25名
まちづくり・観光・文化スポーツ・交通分野	709名	教育分野	253名
結婚・子育て・県民活躍分野	123名	【計1,339名】	

■ 長期ビジョンに関するセミナー （各分野の専門家等による公開セミナー）

6月 3日（月）	<第1回>	講師：株式会社LIFULL LIFULL HOME'S総研所長 島原 万丈氏
		テーマ：地方創生の希望格差 参加者：129名
7月12日（金）	<第2回>	講師：デロイトトーマツグループ コンサルティングビジネスリーダー 長川 知太郎氏ほか
		テーマ：誰もが主役のふくい ～多様な個性を大事にし、みんなが自分らしく輝く～ 参加者：55名

■ アンケート

<県民アンケート> 調査期間：令和6年7月5日～7月26日
調査方法：郵送による調査票回収およびWEB
調査対象：県内に居住する満18歳以上の3,184人
回答者数：1,710人（有効回答率53.7%）

<県外アンケート> 調査期間：令和6年6月18日～7月14日
調査方法：WEBアンケート
調査対象：福井県での居住経験がある県外在住者
回答者数：117人



（第1回セミナー）



（第2回セミナー）

■ 福井の未来を担う人材の育成

- ・ これまでにない発想を生み出す人材を育てるためには、文化やアートに触れることが大切
- ・ 義務教育の段階で、子どもの特性や特技を生かし、農業や工業、デザインなど個性を伸ばす取組みをもっとできないか
- ・ チャレンジに対する理解をさらに高め、再チャレンジも含めて応援するべき
- ・ 福井を楽しんでいる大人の姿を子どもたちに見せることが大事
- ・ 自然の中で生きる力を育み、様々な体験をすることができる場が福井にはある。それを活かし、発信していくことで差別化が図れるのではないか
- ・ シビックプライドを作り、QOLを高めていくことが重要であり、スポーツには可能性がある
- ・ 保育者の仕事へのマイナスイメージが先行していることに危機感を感じる
- ・ 農業や林業が大事な産業であるということを、中学生やその保護者にもっと伝えることが大事

■ 新幹線効果の継続と産業の活性化

- ・ 県民が主役であり、地元の人の充実感や達成感を高めるという視点を忘れてはならない
- ・ インバウンド観光をいかに取り込んでいくかが重要
- ・ 地元で働きたい若者の受け皿を作り、チャレンジに対する投資を呼び込めることが大事
- ・ 地産地消により県内経済を循環させ、外貨を稼ぐ取組みが重要
- ・ 新幹線沿線地域の連携を強化するとともに、環境共生・資源循環型のものづくりを推進すべき

■ 多様性・包摂性のある社会の形成

- ・ とんがった人を育てるには、それを受け入れる多様性・寛容性も必要
- ・ 労働力不足の観点からも長く福井に住む外国人材は大事であり、長く楽しく住んでもらうためには、外国にルーツを持つ子どもと保護者への支援が必要
- ・ 今後の福祉は、保健・医療だけでなく、就労や教育、住まいなどあらゆる分野と連携した包括的な支援体制が必要
- ・ 社会全体で子育てを応援していく雰囲気を作り、未来に希望が持てる社会になることが望まれる
- ・ 女性が意思決定の場に参画できることが大切で、その土台として男性の家庭進出が重要

■ 「チームふくい」の県政運営

- ・ コロナ禍において発揮した、行政や医療機関、県民などのステークホルダーの相互信頼により生まれるパワーを活かしてほしい
- ・ 様々な領域でリソースやコストを共通化できるはずであり、ノウハウや資金、設備などを共有していくことが大事
- ・ 量の目標値だけでなく、質的な目標値や、県民の幸せを支える安全安心にかかる目標値もあるとよい

■ 産業・労働分野

- ・ 賃上げに向けては、取引価格の適正化がより一層必要。付加価値を言語化することで、価格交渉力を磨くことも重要
- ・ 住民の生活を支える仕事（介護、保育、医療、教育など）に従事している人へ、その能力に見合った待遇改善が必要
- ・ 経済規模の拡大ではなく、生活のクオリティをいかに高めるかを重視した経済に転換すべき。その結果、真に幸福が実感できる社会になると思う
- ・ 仕事に対する満足度が福井県のような地方県は特に低い。経営者が従業員のことをもっと考えるとともに、県内にいろんな職種の企業を誘致し、県民の職業選択の幅を広げる必要がある。
- ・ 投資を行うという発想やビジネスモデルの変革など、経営者の意識変革も大事
- ・ 若い人はどんどん将来性のある分野で起業するノウハウ、マインドを育てるとともに、資金面などでの支援の体制を充実していくべき
- ・ 今まで以上にI C Tが進歩し、業務が簡略化されるようになってほしい
- ・ 外国人が暮らしやすい社会の実現に向けては、日本人の県民が「やさしい日本語」を使うなどの気遣いも必要

■ 農林水産分野

- ・ 生産量が少ないと価格交渉力が弱く、ストックを多く持つことで価格形成が可能となる
- ・ 嶺南地域にも園芸カレッジをつくるなど、嶺南で新規就農者を確保できる仕組みが必要
- ・ 集落営農組織の後継者不足が深刻
- ・ これから定年が65歳になると定年後就農者が減少すると見込まれるため、新規就農者への支援を手厚くして定着を図るべき
- ・ 少量多品種の福井県だからこそ、県内消費を確実に固めることが他県より大事である
- ・ 有機農業への転換を進めるには販売先の確保が課題の一つであり、学校給食で有機農産物を使用することが有効ではないか
- ・ 生産面から気候変動に対応できるような施策があるとよい
- ・ 航空レーザ計測データを活用して、資源量や施業地のデータを積み上げて生産規模を決めていくべき
- ・ いきなりバイオマス燃料として燃焼するのではなく、まずは製材（マテリアル）として利用していく方向性を考えるべき
- ・ 人材確保や離職防止策に加えて、林業従事者の所得向上が重要
- ・ 漁業は、温暖化等の影響で良・不良の波が激しくなり、安定経営が難しくなっている
- ・ 飼料が高騰しており、魚価に反映させることも必要

■ まちづくり・観光・文化スポーツ・交通分野

- ・開業効果もあって、なんとなく来たという客が多いため、戦略的に来てもらうようにしないといけない。インバウンドは、ターゲットの絞り込みが出来ていないため、出身国などを把握することが大事
- ・駅から観光地等までの動線を観光客目線で再確認して、充実させるとよい
- ・県民にも来県者にも街歩きが楽しい地域づくりにもっと力を注ぐべき。空き店舗などをリノベし、安い賃貸料で県内外からやる気のある面白い事業にチャレンジしたい人を集めるべき
- ・企業や個人経営の店舗が、地元の文化伝統等を活かし、福井のアイデンティティーが感じられる創意工夫ができるよう、行政も働きかけるべき
- ・福井県内で面白い取り組みが増えてきているが、「イベント」の形が多く、いつでも・だれでも楽しめるものも必要。もう少し「遊び」の視点を持って面白い空間が作れるとよい
- ・食べ物や自然、県民性も素晴らしいが、「どうせ福井なんか」という謙遜が多い。ポテンシャルは高いと思うので、もっと発信力を高めてほしい
- ・人口減少による将来的な、地域コミュニティや社会インフラへの影響を住民と共有し、課題意識を共通認識化するべき
- ・人口が減っても廻せる仕組みづくりが必要であり、テクノロジーの活用などDX化を進めるべき
- ・外資ではなく、地元のプレイヤーが活躍するのが理想。やる気のあるプレイヤーの発掘を先行すべきで、プレイヤー起点にプロジェクトが生まれる

■ 結婚・子育て分野

- ・「結婚がいい」と周りから聞いたことがあまりないが、結婚しないのかとやたら聞いてくる
- ・子育ての喜びや毎日のいきがいなど、子どもを通して大人自身が学ぶようなポジティブイメージの発信が大事
- ・未婚者やこれから子どもを持とうとしている人に、子育て支援に関するボランティアに関わっていただくなど、子育ての楽しさを味わってもらうとよい
- ・子どもの遊び場、特に屋内施設が少ない。今ある施設の改装より、施設の数自体が増える方がありがたい。家族で過ごせる大きな遊び場やミュージアム、公園などが整備されるとよい
- ・女性活躍だけでなく、男性の家庭進出支援や啓発活動も行っていくべき
- ・現在時短勤務をしているが、仕事と育児の両立で悩んでいる。働くママがもっと働きやすい環境を作りたい
- ・検診のたびに書類を書くわずらわしさがあり、子どもの発達等の記録を行政と共有できるアプリがあるとよい
- ・価値観が多様化する中で、結婚や出産を押し付けるのではなく、結婚したい人・子どもを産みたい人を手厚く支援し、障壁を取り除くことに集中すべき
- ・結婚したいという気持ちがあるが、自分の気持ちなのか世間の期待なのか、わからなくなるときがある
- ・経済が低迷している時代を生きてきて、給料などに希望が持てなくなっている

■ 医療・健康・介護・福祉分野

- ・ 避難所の備蓄物として、ペット用のケージやリードなどが必要。首輪は必須
- ・ 点字ブロックの設置範囲など、様々な場所でバリアフリー化がもっと進んでほしい
- ・ 施設を退所した子どもたちは社会に出て誰かに頼ることを遠慮してしまうことがあるため、「相談していいんだ、困っていてもいいんだ」ということを伝えることも重要
- ・ 同じような境遇の子どもたちが集える場や、支援者側に意見を言える場があるとよい
- ・ 誰かにいてほしい人もいれば、誰もいないほうがいい人もいる。人によって違うので、色々なニーズに対応できる選択肢を用意することが大事

■ 防災・環境分野

- ・ 高齢化が進展する中、救命・救急にかかる負担の増大は必至であり、受益者が相応の負担をするなど、救急システムが持続する仕組みを広く検討すべき時期に来ている
- ・ 鉄道は様々な輸送機関の中で最も環境負荷が少ない手段なので、モーダルシフトを促す施策を検討するとよい
- ・ 脱炭素に関する環境教育を充実させるとよい
- ・ 気候変動適応について、認知度や関心のあることなどの意識調査に努めながら普及すべき
- ・ 食品ロス対策は、企業に対してまだまだ働きかける余地があると思う
- ・ 幸せは「安全」と「安心」の上に成り立つので、水やエネルギー、食糧などあたり前の足元を見つめ直すことも必要

■ 県民活躍分野

- ・まだまだ精神的にも肉体的にも健康なのに「定年」等で現役を離れた中高年が、「次世代」や「地域社会」のためにまだまだ出来ることが一杯あることの「発見」、「自覚」が足りない。「おもしろい」をキーワードに積極的に活動できる「場」づくりがもっとも必要
- ・「挑戦」したい！と考える個人のマインド向上と環境づくり（コスト面や機会）が必要
- ・全国的にみて福井県の寛容性は高い方ではないので、寛容性を高め、新しいことを始めやすい社会にするべき
- ・チャレンジする若者だけでなく、若者のチャレンジを応援する中年、高年者を増やすべき
- ・福井にも東京の若者と大差ない、アクティブな、面白い、何かを成し遂げようとしている若者はたくさんいる。その挑戦をもっとフォローしてほしい

■ 教育分野

- ・地元に関心や愛着を持つ教育の強化が必要
- ・小さいころから文化財に触れてもらい、担い手であるという意識を育てる必要がある
- ・学校生活以外の時間にも、インターネット以外のものと触れ合う機会を確保していくことが課題
- ・インターネットを安全に楽しく利用するには、大人の意識改革も必要
- ・教員の働き方改革を進めることが教育の質の向上につながる

■ 産業・労働分野

- ・ 県内に希望する仕事が少ない。企業誘致、雇用促進をして安心して働ける環境をつくってほしい
- ・ 福井県の古い価値観がベンチャーであっても浸透してる。政策も風土を変化させる方から始めるのが良い
- ・ とにかく所得を増やすことは大前提であり、新たな産業や価値の創出が必要不可欠。価値の創出だけでなくPRする手段や方法も考え方を一新しなければならない
- ・ 女性の所得が東京並みになり、女性の自立が可能な地域になることが必要。大家族は良いが、主婦の負担大は問題

■ 教育分野

- ・ 子どもたちの探究学習の充実化を促進し、若者の視界を広げた中で、地域の価値を高める産業を若い人が生み出せる環境と人を整備してほしい

■ まちづくり分野

- ・ 自家用車を持たないと生活できない状況であることもUターンする場合の大きなハードル
- ・ 田舎に住みたくない理由としてよく聞くのは、元々住んでいる集落のしきたり。干渉しすぎないコミュニケーションの受け入れ態勢が上手くできれば、満足度は高い

○県民が楽しみ、多くの人を惹きつける地域

- ・新幹線開業の効果を持続
- ・まちが大きく変化
- ・観光やまちづくり
- ・インバウンド
- ・戦略的に誘客拡大
- ・街歩きやスポーツ
- ・いつでも、誰でも楽しめる地域に
- ・地元プレーヤー
- ・民間投資
- ・県民も福井の良さの再認識を
- ・福井の素晴らしさを謙遜せずに発信

○地域との関わりや愛着

- ・人材育成
- ・教育での地域の探究活動
- ・大人が楽しむ姿を子どもたちに見せる
- ・伝統文化
- ・古民家活用
- ・シビックプライドや地域への愛着
- ・人口が減る中でも暮らしの質を維持
- ・テクノロジーの活用などDX化

○多様で活力ある社会

- ・多様な人材の活躍
- ・女性活躍と男性の家庭進出
- ・外国人材
- ・個性やそれぞれの能力の発揮
- ・価値観
- ・結婚や出産
- ・安心して将来設計
- ・経済的な自立
- ・社会全体での子育て
- ・シニア

○安全・安心の暮らし

- ・障がいのある方
- ・困難を抱える子ども
- ・自然災害
- ・防災減災の強化
- ・社会的弱者の目線
- ・住民の生活を支える仕事への理解と支援
- ・豊かな自然環境等の生活基盤

○チャレンジの応援

- ・若い人の起業や挑戦
- ・応援する中高年の増加期待
- ・再チャレンジ
- ・若者の雇用の受け皿
- ・ノウハウや資金、設備などリソースの共通化
- ・投資やチャレンジャーの呼び込み
- ・働くことの満足度

○持続可能性

- ・環境配慮型、資源循環型の産業
- ・脱炭素
- ・モーダルシフト
- ・食品ロス
- ・持続可能性
- ・食、エネルギー
- ・最先端の技術
- ・エッセンシャルワーク

■ 基本目標

しあわせ先進モデル 活力人口100万人ふくい

■ 2040年の目指す姿



SDGs（誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会）の理念に沿いながら、3つの姿を目指す

自信と誇りのふくい

「ふくいらしさ」を大切に。
県民が誇りをもって暮らす
ことにより、さらに多くの
人を呼び込む“ふくい”

「ふくいらしさ」を伸ばし、
外に開いて人を呼び込む。

誰もが主役のふくい

すべての人が輝き、
互いに支え合い、幸せを実感
しながら、将来にわたり
安心して暮らせる“ふくい”

多様な個性を大事にし、
みんなが自分らしく輝く。

飛躍するふくい

交通体系の進展や
技術革新を活かして、
産業の新たな可能性を拓く。
創造的で活力ある“ふくい”

変化をチャンスに、
しごととくらしを創造。

- 2040年の目指す姿の実現に向け、これまでの成果や環境の変化などを踏まえつつ、さらなる意見交換を行いながら、次期プランにおいては次の方向性をもって施策を検討

『自信と誇りのふくい』の実現に向けて

- ・ 新幹線効果や中部縦貫道の整備を追い風に、**観光・まちづくりを加速**するとともに、**インバウンドを含め、戦略的に誘客拡大**を図ることが重要ではないか。また、**地元プレーヤー起点の挑戦を応援**することはもとより、広く**民間投資を後押し**し、次の動きにつながる好循環を生むことが重要ではないか
- ・ 県民自身がまちが大きく変わったことを実感し、さらなる変化を期待している好機であり、**文化やスポーツ**など、人が行き交い、**大人も子どもも楽しいと感じる場**を、さらに増やすチャンスではないか
- ・ 自然や歴史文化、食はもちろんのこと、県民性も含めた当たり前の「**ふくいらしさ**」を、**謙遜せずに主体的に発信**できるようになることが大事であり、そのためには**県民が福井をもっと楽しむ**ことが重要ではないか
- ・ **福井の教育力**を活かし、**地域に飛び出すふるさと教育**など、地域を知り、地域のことを考える活動を推進することが重要ではないか。また、古民家再生など、自身のアクションが未来を創ると実感する「**地域との関わりしろ**」をつくり、**地域への愛着**を深めることが重要ではないか

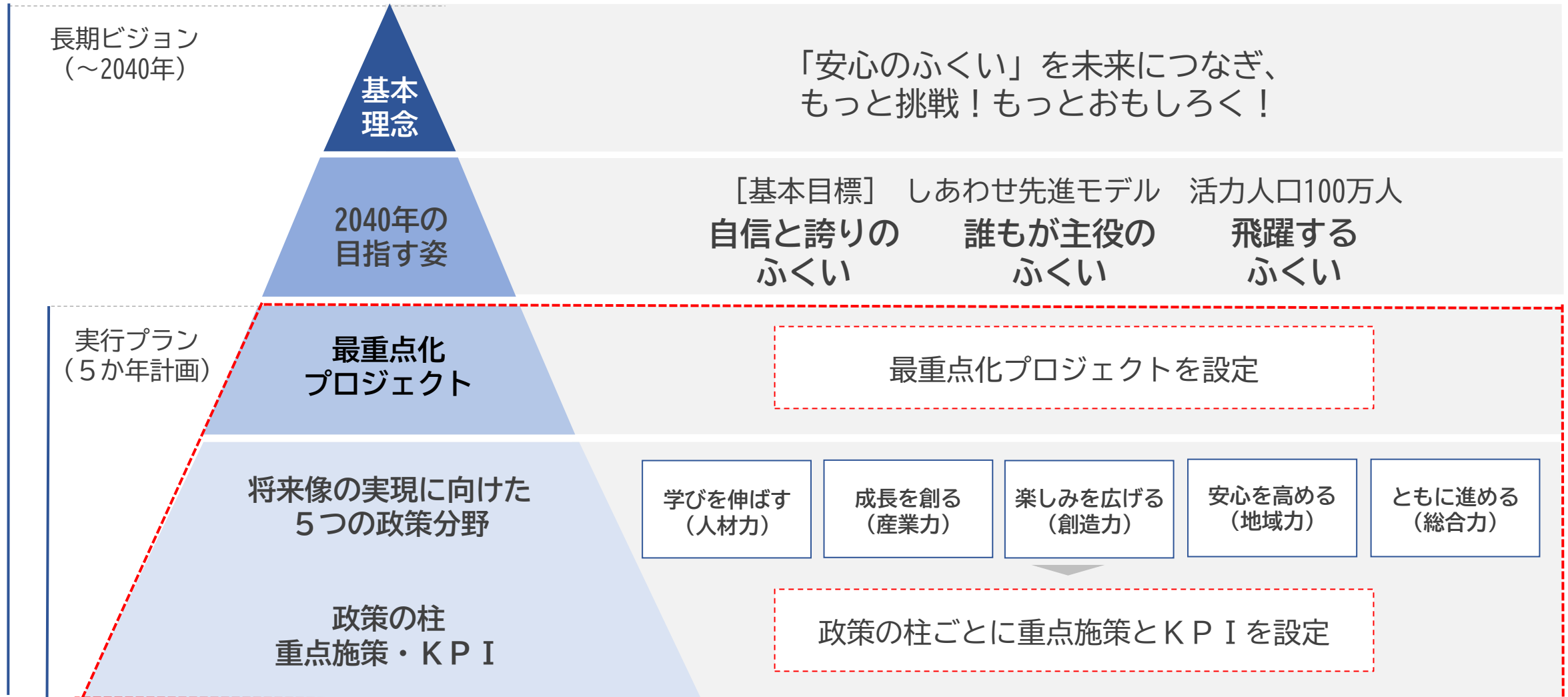
『誰もが主役のふくい』の実現に向けて

- ・ **女性の意思決定の場への参画**や、地域の一員としての**外国人との共生**など、ダイバーシティ社会の実現を推進し、それぞれが**ライフスタイルや価値観が尊重される「居場所」**を持ち、**自分らしく輝ける「舞台」**をつくることが重要ではないか
- ・ 若い世代の働き方に対する価値観が多様化する中、可能性を狭める固定観念に気づき、**これまでの常識に捉われない人材育成・登用**や、**仕事と家庭の両立を支える勤務制度**などの整備が必要ではないか
- ・ 結婚や出産を押し付けるのではなく、子育て支援ボランティアなどの活動を通じて、子育ての喜びや楽しさを体感することで**自ら結婚・子育てをしたいと思える**ようになることが必要ではないか。また、結婚・子育てを望む方々が**安心して将来設計を描ける**ようになるには、**所得向上や社会全体での子育て支援**が欠かせないのではないか
- ・ **シニアの社会参加や健康寿命延伸**のほか、**障がいのある方の活躍や自己実現、困難を抱える子どもたちのケア**など、一人ひとりが抱える困難や不安に寄り添い、誰一人取り残されない個別最適な支援を整えることが重要ではないか
- ・ 地震や大雨、大雪など頻発する自然災害に対して、**社会的弱者の視点を踏まえて、一人ひとりの安全・安心を高める防災・減災対策の強化**が必要ではないか

『飛躍するふくい』の実現に向けて

- ・環境配慮型、資源循環型の産業への革新や持続可能な地域づくりなど、次の時代をつくる経済界や地域・団体などのチャレンジを促進・支援し、「未来への投資」を進めることが一層重要ではないか
- ・AIなど最先端の技術を積極的に取り入れ、生産性を向上させながら、働くことの満足度を高めるとともに、都会並みの給与水準で安心して働ける職場環境をつくるのが、人材の確保、ひいては企業の成長に資するのではないか
- ・豊かな食や自然環境の基盤となる農林水産業について、生産量拡大、価格交渉力や所得の向上のほか、地産地消の推進が重要ではないか
- ・医療、介護、保育、教育、交通などエッセンシャルワークをはじめ、各種産業での人材不足への対応や生活を支えるサービスの維持向上に向けた革新も必要ではないか
- ・地域課題をビジネスで解決しようとする民間主体を「ちょい足し応援」するなど、官民共創モデルを構築し、地域に根ざしたローカル・ゼブラ企業を粘り強く育成することが重要ではないか。また、「チャレンジフィールド」としての魅力高め、投資やプレイヤーを継続的に呼び込むことが重要ではないか

- ・ 先述の3つの方向性を踏まえ、5か年間の最重点化プロジェクトを設定
- ・ 5つの政策分野ごとに、政策の柱を立て、重点施策やK P Iを設定



■ 次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」
の検討の観点（案）

福井県の人口減少の特徴

- 若い世代の県外転出等により若者の人口が減っているため、県内の未婚率は全国比で低いものの、婚姻数は減少傾向
- 夫婦の出生数（有配偶出生率）が、全国上位の水準にはない（全国平均は上回る水準）
【婚姻件数 2000年 4,582件 → 2023年 2,620件（△42.8%）】

出生数の増減要因

若い世代の人口

方向性①

婚姻数

方向性②

夫婦のもつ子どもの数

方向性②

出生数の増減

福井県の現状

転出超過数は20-24歳が全体の半数以上を占め、うち女性が約6割を占める

福井県の転出超過数 (R1-R5年合計)	男性		女性	
	人数	割合	人数	割合
うち20-24歳	2,757人	51.5%	4,008人	56.5%

年齢	2010年		2020年	
	男性	女性	男性	女性
10歳代人口	40,967人	38,222人	40,967人	38,222人
20歳代人口	34,577人	30,967人	34,577人	30,967人

10年間で ▲15.6% (男性), ▲19.0% (女性)

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

全国と比較すると未婚率は低いが、結婚したいと考えている独身者は30代後半で約3割

50歳時未婚率 (生涯未婚率) (令和2年)	全国		福井県	
	男性	女性	男性	女性
	28.3%	17.8%	23.4% (全国2番目に低い)	12.1% (全国最小)

結婚意欲のある独身者の割合 (年代別) (令和6年)	20-24歳		25-29歳		30-34歳		35-39歳	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
	75.9%	71.9%	62.6%	30.8%				

結婚意欲のある独身者の割合 (年代別) 30-34歳 62.6% 35-39歳 30.8% (令和6年)

年齢上昇に伴い結婚意欲は低下傾向

出典：総務省「国勢調査」、福井県「結婚子育てニーズ調査」

夫婦の持つ子どもの数は全国中位程度で、4割は希望の子ども数を叶えられていない

有配偶出生率※ (令和2年)	全国		福井県	
	男性	女性	男性	女性
	74.6人	77.6人	77.6人	(全国15位)

理想の子どもの数を 持っていない割合 (40代) (令和6年)	40代既婚者の44%が理想より少ない子ども数	
	理想:4人以上	理想:3人
	66%	55%
	31%	9%

理想の子どもの数を 40代既婚者の44%が理想より少ない子ども数

理想:4人以上 66% 理想:3人 55%

理想:2人 31% 理想:1人 9%

※有配偶出生率:15~49歳の結婚している女性1000人あたり出生数

出典：総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態統計調査」、福井県「福井県子ども・子育て調査」

今後の対策の方向性

- 若い世代（特に女性）にいかに県内定住を選んでもらうか
- 県内定住を選んだ若い世代の結婚・子育ての希望をいかに叶えるか（働き方、結婚～子育て支援等）

『「次世代応援意見交換会」などにおける県民の声』および『データが示す若い世代の意見』

① 「仕事」に関する声



地元は好きだが、希望に叶う仕事がなく都会で就職した。(30代・県外女性)



仕事を続けたくても、子どものために続けられない人もいる。ブランクがある人でも安心して働けるプログラムや、職場の紹介があると良い。(30代・県内女性)



女性の所得が東京並みになり、女性の自立が可能な地域になることが必要。
(70代・県外男性)

N データが示す若い世代の意見

- ・子育て世代女性の働きやすさについて、福井県は総合的には全国上位である一方、男女間賃金比率と女性管理職比率については全国下位
- ・女性が管理職になる上で課題と感じていることは、家事・育児・介護への負担の大きさ

② 「結婚やプライベート」に関する声



両親の仲が良く、憧れがある。親とも結婚の話はする。出産を考えると、30歳までには結婚したいと思っている。(20代・県内女性)



高校生の時に作ったライフプランでは22歳で子どもを産む予定になっていたが、30代半ばになって結婚願望がなくなった。(30代・県内女性)



田舎に住みたくない本当の理由は、集落のしきたりが多い。干渉しすぎない地域コミュニティなら満足度は高い。(30代・県外男性)

N データが示す若い世代の意見

- ・交際相手が欲しいものの、活動方法がわからない、自信がないなどの理由で恋人探しに踏み出せない若者も多い
- ・結婚に至っていない理由として、出会いの不足と経済的不安が挙げられている

③ 「子育て」に関する声



3人の子どもの父親として、母親（妻）には苦勞をかけてきたと認識している。お金と時間の両面からの支援を考えて欲しい。(40代・県内男性)



出産した本人だけでなく、夫の育休が1年取ることが当たり前の社会になれば、心に余裕をもった育児ができるようになると思う。(30代・県内女性)






転勤で様々な自治体に住んだが、福井が最も子育てに優しいと感じる。「地域全体が子育て世代を見守り味方する姿勢」が大事ではと福井に来て感じる。(30代・県内女性)

N データが示す若い世代の意見

- ・全国的にも夫の家事育児参加が多いほど第2子出産と妻の勤務継続が多い傾向
- ・理想と予定の子ども数の差は、主に経済的負担と子育ての精神的・肉体的負担が要因
- ・妻の家事・育児時間は長く、分担が必要だが、小さい子を持つ夫婦のゆとり時間は男女ともに短い

これまでの取組み、成果、課題

	①仕事・働き方に関すること	②結婚・出産・子育てに関すること	③進学・就職、U I ターンに関すること
これまでの取組み 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力的な仕事づくり (企業誘致補助金、ベンチャーピッチ、ウェルビーイング経営) 賃上げ、働き方改革支援 社員のスキルアップ支援 取引価格の適正化の促進 デジタル技術による生産性向上の支援 社員ファースト企業、女性活躍推進企業の拡大 男性の育休取得支援 	<ul style="list-style-type: none"> イベント開催、A I マッチングシステム導入 縁結び支援 (地域の縁結びさん) 結婚新生活費用支援 共家事の促進 保育料、高校授業料、子ども医療費の無償化 不妊治療支援 遊び場支援、ベビサポトイレ整備 ふく育応援団、ふく育さん、ふく育タクシー 	<ul style="list-style-type: none"> 県立大学の新学部・学科設置 県内就職支援 (就職活動費支援、就職支援協定、交流会、奨学金返還支援) 移住支援 (支援金、お試しテレワーク助成、体験ツアー、ふく育県留学) 若者の交流支援、チャレンジ応援 (ワクチャレ、学生の長期滞在型キャンプ)
成果 	<ul style="list-style-type: none"> 成長性や付加価値の高い企業の誘致 創業ベンチャーやウェルビーイング経営への機運 賃上げの流れの広がり 女性の活躍や従業員の働きやすい職場づくりを行う企業の輪の拡大 男性の家事、育児参加への機運 	<ul style="list-style-type: none"> A I を活用した婚活支援による恋愛から結婚への可能性の拡大 全国トップクラスの生涯未婚率の低さを維持 経済的支援や男性育休の取得支援など子育て支援メニューの充実と利用者からの評価 全国トップクラスの合計特殊出生率を維持 	<ul style="list-style-type: none"> 県内進学の実績の拡大 県内大学進学者の地元就職 自治体の支援を受けてU・I ターンした「新ふくい人」の拡大、子育て世代の移住の拡大 若者のチャレンジ文化への機運
課題 	<ul style="list-style-type: none"> 女性が希望する雇用やキャリア形成ができる環境整備 若者が将来に希望を持てる賃上げの実現 結婚・出産等による女性の正規離職、管理職割合の差、男女間の賃金格差の解消 子育てと仕事を両立しやすい労働環境整備、働き方改革 	<ul style="list-style-type: none"> 結婚願望はあるが一步踏み出せない若者の後押し 結婚、子育てに対する経済的な不安や負担感 希望する子どもの数の実現 子育て世代の時間的な余裕の確保 子育て支援の情報の浸透 高等教育期 (高校～大学) における経済的負担感 	<ul style="list-style-type: none"> 地元で働くことを見据えた進路選択の促進 県外大学進学者の地元就職 県内高校卒業生との継続的なつながりづくり 県外で働く県内出身者との関係づくり 地域で活躍する多様なロールモデルの発信 女性が都会に求める自由な雰囲気

上記の課題への対応に加え、女性や若者が、福井での暮らしの中で「居心地の良さ」「おもしろさ・自己効用感」をいかに実感できるかが重要ではないか。

これからの福井県に求められること（案）

地域社会 多様性を楽しめる社会

- ・ 家庭・職場・地域の各場面で、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）に気づき、考え、理解しあえる機会を作ること
- ・ 自分に対しても相手に対しても「こうあるべき」と気負わず、「違い」を楽しめる雰囲気を作ること

働き方 生きがいと働きがい

- ・ 希望する生き方や働き方が多様化する中で、理想のライフスタイルを実現できるような環境を整えること
- ・ 男性だから、女性だからと関係なく、ジェンダーレスに仕事をし、人生を楽しめる社会であること

家庭 結婚・出産の希望がかない、子育てを楽しめる社会

- ・ 結婚・出産の希望がかない、それぞれが思い描く家族像を実現できるよう、地域・社会が家庭を支える存在であること
- ・ 子育て中の家族が子育ての楽しさを実感し、若者が子育てに対しよりポジティブなイメージをもてる世の中であること

関わりしろ 皆とつながり続ける

- ・ 自身のアクションが未来を創る「地域との関わりしろ」をつくり、幼いころから地域への愛着を深めること
- ・ 県外に出た方が、様々なライフイベントのたびに、福井県に戻りたくなるよう、継続的につながっていること

暮らしの喜びや幸せを実感できる社会へ

- これまで実施してきた施策の成果などを踏まえつつ、さらなる意見交換を行いながら、次の方向性をもって施策を検討

新たな観点

現戦略から
継続する観点
(現戦略を再構成)

1. 若い世代に選ばれる「地域スタイル」の構築

- (主な取組みの例)
- ① 地域への愛着を育む教育
 - ② アンコンシャス・バイアスへの理解促進
 - ③ ウェルビーイングの向上
 - ④ 若者参加のまちづくり

2. 「働きがい+働きやすさ」の魅力ある仕事の創出

- ① 若い世代の経済自立・安定所得向上につながる経営改革支援
- ② 女性が望む雇用づくり・L字カーブの解消・男性育休の拡大
- ③ 時間や勤務地にとらわれない多様な働き方の促進

3. 結婚・出産・子育ての「希望が叶う社会」の実現

- ① 出会いの機会拡大・恋愛への後押し
- ② 結婚・子育てへのポジティブなイメージづくり
- ③ ふく育さん・ふく育タクシー・家事の外部化促進など地域での子育て支援

4. 「県内進学・就職」「U・Iターン」の徹底応援

- ① 学生時代からの継続的なつながりづくり
- ② 地元進学・地元就職の促進
- ③ 体験を通じたU・Iターンの促進